

定はできない。このような雑種集団が、ツクシハギとピッチェウヤマハギの分布の重なる地域に散在するため、両 2 種の識別は時に難しいことがある。特定の学名を与えることは避けたが、便宜上ピッチェウツクシハギの和名を与えることにした。

□唐沢耕司：パフィオペディルム (Karasawa, Kōdzi: The genus *Paphiopedilum*) 255 pp. (内 24 pls.) 1982. 誠文堂新光社, 東京. ¥2,850. ラン科の中の一属で一冊の本が出せるとは日本も進歩したものであるとは評者一人の考えではあるまい。本書は、30 数年前に著者を魅了して以来、その特殊な形態とそれを支える核形態を追及してほとんどの種を一堂に集めたものであって、ことに各種毎に核形態の種々相が述べられている点が異彩を放ち、その点でも類を抜くものである。該属は東南アジアを主産地として約 60-80 種を産するが、Asher (1980-81) は 3 亜属 82 種、Brieger (1971) は 4 亜属 68 種にしているものを 6 亜属 70 種とし、ことに subgen. *Parvisepalum* を新しく記述したが、それは 3 種で雲南、ヴェトナムの狭域に自生し、時に葡萄茎を具え、上がく片に較べて側花弁が非常に大きく、アツモリソウに似た唇弁で注目される。核型を一々解析して結局は $2n=26$ の型に帰せられるとしたものはっきりした見解である。著書の大半が種並びに亜属や節の詳細な説明に費され、その点で注目されるのみでなく、外部形態、核形態、分布、種分化と核型進化、それに分類とする総論編と共に重要である。付表に分類表、中期染色体の測定値例 5 種、栽培条件、種名と文献等を列記してあるのも親切である。 (前川文夫)

□フロラ福島 Vol. 1 58 pp. 1982. 福島県植物誌編さん委員会. 福島県植物誌の刊行を目指して長い間熱心に植物調査を続けているアマチュアの方々が中心となって発行した機関誌の第 1 号。表題が植物誌そのものであるような印象を与えるが、植物誌発行までの研究成果を報告するもので、今後続刊されるという。福島県植物誌は高等植物だけではなく、コケ類、藻類をも含めた総合的なものを目指すと聞くが、本誌もこれを反映して内容は多様である。コケ 2、シダ 2、種子植物 2 および高等植物の分布とフロラ 3 の計 9 篇の論文に鈴木貞雄氏の発刊のことがつく。猪苗代湖を分布の境界とする高等植物、阿武隈山地南部のシダ分布、ヒメノヤガラ (ラン科) の発見など、論文の中には地元でなければ得られないような新知見が多く含まれている。福島県植物誌の完成を期待する。本誌の問合せ先は 〒970 いわき市自由ヶ丘 10-9 湯沢陽一氏。 (大橋広好)